



※vol.019の表紙画像



※vol.018の表紙画像

妖怪マガジン『怪』と怪談専門誌『幽』が劇的に合体！！
すべてのお化け好きに贈る、エンターテインメントマガジン

怪と幽

妖怪マガジン「怪」と怪談専門誌「幽」。「妖怪」と「怪談」という、似て非なるコンセプトを打ち出したふたつの雑誌が「怪と幽」に生まれ変わりました。「怪」「幽」両誌のブランドを受け継ぐと同時に、よりエンタメ性に主軸を置いた「怪と幽」独自の特集と強力な連載陣、そして、お化け関連の周辺情報なども掲載し、お化け好きの読者に贈るエンターテインメント・マガジンを目指します！

＜料金表＞ 入稿日(完全データ入稿)：発売日約30日前

広告 スペース	原稿サイズ 天地×左右(mm)	印刷	料金 (税抜)	申込日	入稿日
表4	165×138	4cオフ	500,000円	7月22日	7月29日
表3	210×148	4cオフ	300,000円	同	同
中面	210×148	1cオフ	150,000円	同	同
縦1/3頁	182×36.5	1cオフ	50,000円	同	同

＜媒体データ＞

【発売日】年3回(4月、8月、12月)
【予価】2000円(税別) 【判型】A5判
【創刊】2019年4月24日
【想定男女比】男性40%：女性60%
【発行部数】20,000部

■vol.020 2025年8月28日発売号ご案内 表紙：つのだじろう『恐怖新聞』より（特集連動）

第一特集 昭和100年だヨ！ オカルト大集合

昭和100年を迎えた今年、2025年。昭和のあの時代、流行したのは、UFO、UMA、霊能力者、心霊写真、ノストラダムスの大予言などなど……。特に1970年代は、怪しく不思議なものがごちゃまぜになって世の中を盛り上げた、まさに「オカルトの時代」。お茶の間でも学校でも、誰もが虜になったあの昭和オカルトブームは、一体何だったのだろうか。オカルトがメインカルチャーとして盛り上がった不思議な昭和を振り返りながら、今も受け継がれるオカルトへの根源的な情熱、魅力を徹底解剖する。カオスとわくわくに包まれた昭和オカルトたちを、もう一度楽しみたい！

【インタビュー】ユリ・ゲラー 【インタビュー】つのだじろう 【対談】大槻ケンヂ×みうらじゅん

【寄稿】横山茂雄「いま振り返る昭和オカルト概論 UFO・超能力・超古代史」

【対談】黒 史郎×三上 延「開陳！ 昭和ハチャメチャ本コレクション」

【寄稿】「ぼくらの昭和オカルトブーム」鈴木光司、平山夢明、加門七海、角田光代、佐藤 究

【ルポ漫画】山本さほ「まぼろし博覧会に行ってきた」 【ルポ】カイトユウマン、ツチノコを探す！ （ほか）

第二特集 知っておきたい小泉八雲

NHK朝の「連続テレビ小説」に『ばけばけ』が予定され、注目が更に集まっている小泉八雲。多くの人が名前は知っている彼について、しかし我々は、いかほど知っているだろうか？ もとの名はラフカディオ・ハーン、日本に帰化してセツと結婚。『怪談』を著した「おばけ好き」の「日本好き」。ギリシャの島に生まれアイルランドで育ち、各国を転々とし日本に来た彼は、どのようにして「小泉八雲」となり、生きたのか。2025年のいま知るべきその生を、あらためて案内する。

【対談】小泉 凡×前川知大（劇団イキウメ） 【ガイド】八雲年譜&時代別ブックガイド 東 雅夫 【インタビュー】佐野史郎

【対談】円城 塔×田辺青蛙「八雲好き作家夫婦が語る八雲とセツ」

◆そのほか連載、定例コーナー多数 【小説】京極夏彦、小野不由美 【漫画】諸星大二郎、高橋葉介、押切蓮介 【論考・エッセイ】東 雅夫

【グラビア】吉田誠治、芳賀日出男、佐藤健寿、怪食巡礼 【怪談実話】伊藤龍平、小島水青、はおまりこ

◆対談、インタビュー、寄稿など 綾辻行人×高橋郁子、吉本ばなな、杉井 光、宮崎夏次系、高橋大輔、「動き出す妖怪展 NAGOYA」、三浦半島怪奇幻想文学倶楽部、
『RAIDOU Remastered: 超力兵団奇譚』 etc....